

15 章。

皆さん、覚えているでしょうか。（*14 章）

アブラムの甥ロトは、住んでいたソドム周辺で起こった戦渦に巻き込まれ、アブラムは彼を救うために、軍事攻撃を行いました。

その戦争は北東の王たちの連合と、南の王 5 人の間で起こったもので、南の王たちは、北の 4 人の王たちに服従すべきところを反逆したのです。

それはともかくとして、ケドルラオメルとその連合の北の王たちは南に下り、これら 5 人の反逆王たちを討ちました。

その行程で、ロトや他の多くの人たちが捕囚として連れて行かれます。

ここで、アブラムが行った軍事行為は少々奇妙なものでした。

彼は 318 人のしもべを招集して訓練し、軍事行為を展開して、ロトを含む人々を人質にしている 4 人の力ある王たちに向かって、夜、ゲリラ的な攻撃を仕掛け、多くの敵を相手に勝利しました。

神が彼と共におられたからです。

アブラムはロトと他の人質を助け出し、奪い取られた全ての財産を取り戻し、それらは今、全部アブラムの元にあります。

さて、アブラムが自分の地域に帰って来ると、2 人の王が挨拶に来ました。

1 人目は謎の君主メルキゼデク。彼はキリストの型。

メルキゼデクはパンとぶどう酒を持って来て、アブラムを祝福します。

アブラムはひれ伏してメルキゼデクを礼拝し、十分の一を与えました。

すると、もう一人の王がアブラムのところにやって来ます。ソドムの王。

メルキゼデクが義の王であるのに対し、こちらは悪の王、墮落の王、陰湿な人物。

彼はその日、アブラムのところに来て言いました。

「アブラム、私の民を救ってくれて感謝するよ。お手柄だ。スゴイじゃないか。

これらの分捕り物、境界線は全てあなたのものだ。取ればいい。ただ、人々だけは私にくれ。」

そこでアブラムは、この墮落したソドムの王の目を見て言います。

「断る。私は履き物のひも一本さえ、あなたの所有物からは何ひとつ取らない。

ただ、若い者たちが途中で食べた物は返さない。

そして、私と一緒にいったアネル、エシュコル、マムレには、彼らの取り分を取らせる。

しかし私は、個人的に何も取らない。」

それは大勝利でした。

アブラムはソドムの王には「否」と言い、シャレムの王メルキゼデクを礼拝しました。

しかし、この大勝利の後、アブラムはどん底にまで落ち込みます。

これはよくあること、大勝利の後には、大抵失望させられることが起こるものです。

鬱になるかもしれないし、試練は確実にあるでしょう。

イエスの時を考えてみて下さい。

ヨルダン川でバプテスマを受け、水から上がると天から声がして言いました。

「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」（ルカ 3:22）

そして、聖霊が鳩のような形をして彼の上に下り、ミニストリーの力を与えました。

イエスにとって素晴らしい日。

バプテスマを受け、天が開き、御父の声が天から聞こえ、聖霊の力が彼の上に注がれた。

しかしそれから、イエスはサタンの誘惑を受けるために荒野へ追いやられ、40 日間、敵と格闘したのです。

だから、ヨルダン川でのイエスのように、また、メルキゼデクに出会い、そしてソドムの王の誘惑を退けたアブラムのように、あなたが霊的に勝利した素晴らしい時を過しているのを驚いてはなりません。

こういう類いの勝利、すなわち霊的にハイの状態の後、落ち込みが来たとしても驚いてはいけません。

アブラムは確実に落ち込みを感じていました。

義の王メルキゼデクは、もうそこにはいません。

ロトは自分の場所に戻りましたが、叔父のアブラムが命がけで助けてくれたことに対してお礼を言った、という記述は一つもありません。

「おじさん、ありがとう」と言ったとは書かれていない。

メルキゼデクはいなくなり、ロトはソドムに戻って行った。

アブラムは確かに落ち込んでいます。

鬱になっていたのかもしれませんが。

なぜなら、主が来られて、このように言っているから。

創世記 15:1

これらの出来事の後、(14 章でのメルキゼデクとの素晴らしい出会い、ソドムの王からの強烈な誘惑を退けた大勝利の、その後) **主のことばが幻のうちにアブラムに臨んだ。**

「アブラムよ、恐れるな。恐れるな！ わたしはあなたの盾である。あなたへの報いは非常に大きい。」

「恐れるな。わたしがあなたの盾だ。イライラするな。わたしがあなたの報いだ。」

主はなぜ、アブラムにこのように現れて「恐れるな」と言われたのか。

主は、アブラムが恐れていることを知っていたのだと思います。

その恐れは、突然アブラムを襲いました。

「なんてことだ！ 我々はゲリラ攻撃を仕掛けて、敵を作ってしまった！

相手は 4 人の力ある王たちで、しかも強力な軍隊を持っている。

彼らは、私としもべたちのような素人軍団に負かされたことを、絶対気に入らないだろう。

なんてことを… 私はスズメバチの巣をつついてしまった… 彼らは仕返しに、滅ぼしに来るに違いない。」

そこで主は言われたのです。

「恐れるな。わたしはここにいる。わたしはあなたの盾である。わたしがあなたの報いである。

甥のロトからお礼がなかったからといって、苛ついてはいけません。

ソドムの王が与えると言った分捕り物を受け取らなかったことも、その誘惑に乗らなかったことも心配するな。」

アブラムは間違いなくこう思っていたでしょう。

「なんてこった…強力な 4 人の王を敵に回しただけでなく、妻のところに帰らねばならない。

彼女は言うだろう。『どうだった？』『勝ったよ！』『で、“もの”はどこ？』『取って来なかった。一つも。』」

これが大きな家庭問題になるかもしれません。

命がけで戦いに行って、手ぶらで帰って来るなんて。

そこで主は言われました。

「たとえばアネル、マムレ、エシュコルが分け前を取っていても（14:24）、たとえばあなたが、見せるものを何も持っていないくても、わたしがあなたの報いだ。あなたにはわたしがいる。」

「わたしはあなたの盾となり、あなたが作った敵からあなたを守る。」

「わたしがあなたの報いだ。わたしがあなたの栄華だ。」

あなたにはお金や物はないかもしれない。あなたに差し出される物、ひけらかされる物はないかもしれない。しかし、わたしがあなたの報いなのだ。」

ここで私が思い出したのは、誰もが最終的に求めるもの。

それは、主から頂くものではない。ただ主を求めること。

私たちが飢え渴いて求めているのは主です。

「私は主から何かを頂きたいと思っている」と考えますが、実際は、主を求めているのです。

昨日、事務所を訪ねて来た女性と話をしました。

何年も悩まされていた慢性の病氣、痒みを主が癒して下さったとのこと。

ずっと主を探し求めてようやく見つけ、癒して下さったので大変喜んでいました。

「でも…すっかり解放されて、とても嬉しくて、ものすごいことなんだけど…

症状が再発したらどうしよう。痒みがまた襲ってきたらどうしよう。」

そこで私は言いました。

「大事なものはこれだよ。」

主は、あなたをただ癒したいだけでなく、毎分毎秒、日毎に、ずっと、あなたの健康になりたいんだ。」

私たちは、主から何かを頂きたいと願います。

しかし主は、「わたしは道を示すのではない。わたしが道だ。」

「わたしはパンを与えない。わたしがパンなのだ。」

「わたしは真理を伝えたりしない。わたしが人として来た真理なのだ。」

「わたしだよ。」

だからその女性に言いました。

「主に何かを欲しいと願うのではなく、またそれが持続するか、そのままいられるかと心配するのではなく、むしろこう言いなさい。

主よ、あなたが私の健康です。あなたが私の強さです。

私はあなたにしがみつき、あなたの中に繋がり、あなたに頼ります。

日々、日毎に、毎日毎日、あなたは私の内側を見て下さいます。」

これは大きな違いです。

とても単純な真理ですが、驚くのは、そこに至るまでにものすごい時間を要していることです。

それは、つい、癒やして欲しいというように、主に何かをして欲しいとってしまうから。

だけど主の目的は、私が主から来る何かを発見することではなく、「それは主である」と発見すること。

「主が私の健康だ」と。

主はここで、アブラムにそのことを言うておられるのです。

「わたしがあなたの報いだ。わたしにすがりつきなさい。」

そうすれば、あなたが心から求めている全ての富も、切望している全ての真実も得るだろう。
わたしは、ある。(I am)」

これは大きな問題です。

だから、このことを、あなたが仕えている人たちに、彼らが把握できるように伝えて下さい。
あなたが話をしたり、伝道したりする中で、あまりにも多くの人たちが、主からの何かを求めているから。
「くれ。くれ。くれ。」と。

主は「ジョニー、それはちょっと子供じみている。未熟なことだ。

あなたが真に求めているのは、欲しがることではなくて、まさに『わたし』そのものなんだよ。

そして、わたしから貰ったものをただ握りしめるだけでなく、わたしにしがみついたら、その時、わたしからのあらゆる種類の祝福を受け取るようになるんだ。」

貰うだけもらって主から離れているうちは、主を発見することは絶対できません。

しかし、主を受け取るなら、人生のあらゆる領域で、期待もしていなかったようなものが全て与えられるのです。

それは、主。

それが、主がアブラムに与えようとしているメッセージです。

「アブラム、恐れるな。わたしはあなたの盾である。

そしてアブラム、わたしはあなたの報いである。」

「これを祈ったんだ！ だけど主は聞いて下さらなかった。」「この件で主に信頼したのに、ダメだった。」と、
今日この中で、主に憤っている人、主を恨んでいる人。

それは、あなたが“何か”を探していたからです。

何か、小さく箱詰めされた答えを追い求めたから。

主は「ジョン、わたしはあなたを本当に愛しているんだ。

だから、贈り物の箱を投げ与えるようなことはしない。

問題は、もっと大きな永遠に関わることだから。

わたしがあなたの必要を満足させ、わたしがあなたの力、健康、希望だということを、今日発見して欲しい。

わたしがあなたの全てになる。ジョン、わたしだよ。」

この中に、主のことを、何と言うか、無限のサンタクローズのように思っている人はいませんか。

「あれをちょうだい。これをやってね。これを何とかして下さい。」

すると悲しいことに、どうなるでしょう。

私が主になり、主は私のジーニー（*ディズニー、“アラジン”のキャラクター。ランプの魔人）になる。

「夫婦問題が起きました。解決して下さい。」ディンディンディン

「経済問題を何とかして下さい。」ディンディンディン

「健康問題を抱えています。」ディンディンディン

「早く!!!! 主よ、どこですか!!!!」

皆さん、神は私のジーニーでも、あなたのジーニーでもありません。

もし、そう思っているなら、あなたは夢を見ているのです。

神は、神です。

「主がどうにかするべきだ」と私が思っている問題よりも、はるかに大きな計画を主は持っておられます。

「アブラム、わたしがあなたの盾であり、わたしがあなたの報いである。」

アブラムはそれを理解しましたか。

次の節を見ましょう。

創世記 15:2a

アブラムは言った。「神、主よ、あなたは私に何を下さるのですか。」

1 節で、主はすごい真理を語られました。ものすごい啓示です。

「恐れるな。」 (Fear not)

聖書に初めて登場する「恐れるな。」

聖書の法則は、「聖書の中で最初に使われる箇所が、その後のカギを解く」

人は、主から具体的な贈り物をもらえない時は、ここで見て来たように、いつも“怖い/心配”ですが (Afraid)、そうではなく、主ご自身が答えなのです。

主はアブラムにそれを知らせました。

それに対してアブラムは、**創世記 15:2-3**

2 「神、主よ、あなたは私に何を下さるのですか。」

私は子がないままで死のうとしています。私の家の相続人は、ダマスコのエリエゼルなのでしょうか。」

3 さらに、アブラムは言った。

「ご覧ください。あなたが子孫を私に下さらなかったで、私の家のしもべが私の跡取りになるでしょう。」

彼はまるで私のように、主が言っていることが、さっぱり分かっていません。

ただ、ブツブツ不平を言って。それは私にもできます。皆さんも時々そうなるでしょう。

「主よ、一体…！」

私のしもべのエリエゼルが、私のものを全部相続するのでしょうか!? 私には跡取りがないんだから。」

それが当時の風習でした。

息子がない場合、家のしもべの一番頭が相続したのです。

アブラムはそれに対して文句を言いました。

「主よ、私には息子もおらず、しもべのエリエゼルが全部受け取るというのに、何を下さるおつもりで？」

主は叱責しましたか。もしくは叩きのめしましたか。

それとも、嫌悪感を露わにして、その日アブラムから去って行きましたか。

いいえ。

創世記 15:4

すると見よ、主のことばが彼に臨んだ。「その者があなたの跡を継いではならない。」

ただ、あなた自身から生まれ出て来る者が、あなたの跡を継がねばならない。」

「アブラム、あなたに息子が生まれる。エリエゼルが跡を継ぐのではない。あなたに息子が生まれるのだ。」

主が優しく、寛大で、良いお方でないなら、何でしょう。

主は「わたしがあなたの報いだ。」

アブラムは「何をくれるのですか。」

すると主は「よし。息子をあげよう。」

御父の大きさに完全に圧倒されます。

「あなたに息子を与えよう。」

主は、本当にアブラムに優しく、本当にあなたに優しく、本当に私に優しい。

創世記 15:5

そして主は、彼を外に連れ出して言われた。

「さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。」

さらに言われた。「あなたの子孫は、このようになる。」

「アブラム、息子がほしいか？ 天を見なさい。東の空の星を見てごらん。その内の 1200 は肉眼で見える。」

「わあ！」「星が見えるか？」「はい、見えます。」「数えられるなら数えなさい。数えたければ数えてごらん。」

アブラムは数えようとして言います。

「これはすごい！ およそ 1200？ 最終的に、私に 1200 人の家族ができると言うのですか!?!」

でも、待って。パウロはこう言いました。

どうか、私たちのうちに働く御力によって、私たちが願うところ、思うところのすべてをはるかに超えて行うことのできる方に（エペソ 3:20）

アブラムには 1200 の星しか見えませんでした。

しかし、星はいくつありますか。

彼が無理して考える限度をはるかに超えた数でしょう。

何十億、何兆、何千兆、数え切れないほどの星。

今なら、私たちも、星は数えきれないほどあることを知っていますね。

カール・セーガン（1934-1996）によると、大変面白いことに、星の数と、世界中の全ての海の砂の数は同じだそうです。

今度海に行った時に、手の平にいっぱい砂を載せて、いくつあるか数えてみて下さい。

片手にどれくらいの砂があるか。

あなたが座っているビーチに、どれくらいの砂があるか。

そうして、その地域全体、西海岸全体、世界中のビーチではどれくらいになるか、考えてみて下さい。

カール・セーガンの発見に関して実に面白いと思ったのは、それを数えたのは、彼が初めてではなかったこと。興味深いことに、神がアブラハムに言いました。

「あなたの子孫は星の数ほどになる。」

同じことが創世記 32 章に書かれています。

あなたの子孫を、多くて数えきれない海の砂のようにする。（創世記 32:12）

この二つは、神によって関係づけられているのです。

つづく

主イエス・キリストを着なさい。欲望を満たそうと、肉に心を用いてはいけません。（ローマ 13:14）

「今日、もし御声を聞くなら、あなたがたの心を頑なにしてはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波

DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、目の治療をされました。
どうか、りよくさんの病後の弱さを覚えて、お祈りください。